

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3110	授業科目名	地域社会学特論I	2022年度第1期
担当者	二階堂 裕子	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	この授業は、講義のほか、受講生による報告や討論を交えながら進められる。講義では、グローバル化をめぐるさまざまな動向を取り上げ、それらを捉えるための手がかりについて解説を加えるとともに、社会の多文化化が生み出す諸問題について考察する。また、地域社会の多文化化に関する論考を取り上げ、輪読を行う。			
到達目標	①地域社会学領域の重要な概念、および研究の視点と方法について説明することができる。 ②日本の地域社会が直面している諸課題を、多元的かつ相対的に論じることができる。			
成績評価基準	授業への取り組み姿勢（報告と討論への参加）：40% 期末レポート：60%			
留意事項				
教材	輪読用文献として、以下を使用する。 徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子編著『地方発 外国人住民との地域づくり-多文化共生の現場から-』晃洋書房、2019年 参考文献や資料などは授業中に適宜紹介する。			
授業予定	第1回：オリエンテーション 第2回：グローバル化とは何か：国境を超えた現象をとらえる 第3回：輪読（序章 日本の地方部における多文化化状況） 第4回：国境を超える人の移動 第5回：輪読（第2章 中山間地域における技能実習生の受け入れ） 第6回：国際移動とジェンダー 第7回：輪読（第4章 農村における外国人住民との共生） 第8回：国際移動をめぐる課題 第9回：輪読（第5章 静岡県焼津市のブラジル人とフィリピン人） 第10回：「国民」とは誰か 第11回：輪読（第7章 地方部における日本語学習支援） 第12回：日本社会と移民 第13回：輪読（第9章 地方在住の外国人住民への医療・福祉対応） 第14回：日本の労働市場と外国人労働者 第15回：輪読（第10章 地方に暮らす外国人のメンタルヘルス）			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3115	授業科目名	地域社会学特論II	2022年度第2期
担当者	二階堂 裕子	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	この授業は、講義のほか、受講生による報告や討論を交えながら進められる。講義では、地域社会における異質な他者を理解するための方法論を取り上げ、その実践例と成果について解説を加える。また、方法論のなかでも特にライフストーリーの手法に注目し、輪読を通して、異文化理解のうえでそれがどのような強みを持っているのかを考察する。			
到達目標	①地域社会学領域の重要な概念、および研究の視点と方法について説明することができる。 ②日本の地域社会が直面している諸課題を、多元的かつ相対的に論じることができる。			
成績評価基準	授業への取り組み姿勢（報告と討論への参加）：40% 期末レポート：60%			
留意事項				
教材	輪読用文献として、以下を使用する。 谷富夫編『ライフストーリーを学ぶ人のために 新版』世界思想社、2008年 参考文献や資料などは授業中に適宜紹介する。			
授業予定	第1回：オリエンテーション 第2回：質的調査の考え方 第3回：輪読（第1章 ライフストーリーとは何か） 第4回：フィールドワーク 第5回：輪読（第2章 ライフストーリーの可能性） 第6回：参与観察 第7回：輪読（第3章 沖縄出稼者と定住） 第8回：インタビュー 第9回：輪読（第4章 在日韓国・朝鮮人の「世代間生活史」） 第10回：ワークショップ 第11回：輪読（第6章 文化住宅街の青春） 第12回：ライフストーリー分析 第13回：輪読（第9章 在日コリアンの子どもたち） 第14回：ドキュメント分析 第15回：輪読（第10章 高度医療に見られる生と死）			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3120	授業科目名	家族社会学特論I	2022年度第1期
担当者	山下 美紀	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	この授業では、家族研究の基礎となる理論、分析視角を学習する。 家族社会学の分析視角について解説するとともに、今日的課題について考察する。 並行して古典的文献をいくつか取り上げ輪読形式で報告、討論を行い、理解を深める。			
到達目標	家族研究の分析視角を理解し、使えるようになる。 家族に関する古典的文献を読むことにより、家族研究の潮流を理解する。			
成績評価基準	授業への取り組み、口頭発表、レポート、口述試験で総合的に評価する。			
留意事項				
教材	参考図書：野々山久也・清水浩昭編 2001、『家族社会学の分析視角』、ミネルヴァ書房。			
授業予定	第 1 回 講義概要 オリエンテーション 第 2 回 家族社会学の分析視角 第 3 回 輪読①ラドクリフ・ブラウン『未開社会における構造と機能』 第 4 回 歴史社会学的アプローチ 第 5 回 人口学的アプローチ 第 6 回 ジェンダー研究的アプローチ 第 7 回 エスノメソドロジック的アプローチ 第 8 回 輪読② マリノウスキー『性・家族・社会』 第 9 回 構造機能論的アプローチ 第 10 回 家族ストレス論的アプローチ 第 11 回 相互作用論的アプローチ 第 12 回 交換論的アプローチ 第 13 回 輪読③ マードック『社会構造』 第 14 回 ライフコース論的アプローチ 第 15 回 ネットワーク論的アプローチ 第 16 回 口述試験			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3125	授業科目名	家族社会学特論II	2022年度第2期
担当者	山下 美紀	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	この授業では、家族社会学の研究成果を解説したうえで、現代の家族についての理解を深める。とくに日本の家族を対象に、家族社会学の幅の広さについて具体的事例を取り上げながら説明する。講義に関連する基本的文献を随時紹介する。			
到達目標	家族社会学研究の基本を理解する。 現代の家族現象を社会環境との関連において説明できるようになる。			
成績評価基準	授業への取り組み、討論、レポート、口述試験で総合的に評価する。			
留意事項				
教材	参考図書：永田夏来・松木洋人編 2017、『入門家族社会学』新泉社。			
授業予定	第 1 回 講義概要 家族社会学研究の基本 第 2 回 日本の家族変動 第 3 回 恋愛と結婚 第 4 回 子育てにみる家族主義の限界 第 5 回 討論① 第 2 回～第 4 回をふまえて 第 6 回 介護の「再家族化」 第 7 回 家族階層と教育機会 第 8 回 生活の共同性と家族主義 第 9 回 討論② 第 6 回～第 8 回をふまえて 第 10 回 「お金」と「愛情」の間 第 11 回 セクシュアル・マイノリティの家族 第 12 回 成人子と親との関係 第 13 回 討論③ 第 10 回～第 12 回をふまえて 第 14 回 家族と政治・法律 第 15 回 討論④・まとめ 第 16 回 口述試験			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3130	授業科目名	社会集団・組織論特論I	2022年度第1期
担当者	濱西 栄司	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業の主な目的は、社会学の基礎理論の一つである「社会集団・組織論」の理解を通して、現代社会を捉えるための専門的な視座や技法を修得することにある。代表的な理論として、前半では Olson の集合行為論、後半では Zald、McCarthy、McAdam らによる資源動員論をとりあげ、文献の講読を行う。			
到達目標	理論の特徴や背景、可能性、限界について正確に理解し、もってさまざまな社会組織（特にその因果的メカニズム）を分析するための専門的な知識・技能を修得する。			
成績評価基準	レジュメ作成と発表（50%）、期末レポート（50%）			
留意事項				
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・必携テキスト：特になし ・参考書：森脇俊雄、『集団・組織』東京大学出版会、2000年 ・参考資料：適宜、プリントなどを配布する。 			
授業予定	第 1 回 序論—目的合理的行為 第 2 回 集団・組織形成の前提 第 3 回 公共選択アプローチ 第 4 回 集合財とフリーライダー問題 第 5 回 選択的誘因と集団規模、政治的企業家 第 6 回 利益集団論へのインパクト 第 7 回 オルソン批判と現代政治 第 8 回 事例・実験による検証 第 9 回 集合行為問題と民主政治（1）経済発展 第 10 回 集合行為問題と民主政治（2）国家論 第 11 回 組織の維持・存続 第 12 回 離脱・発言・忠誠 第 13 回 組織間関係論（1） 第 14 回 組織間関係論（2）社会学的組織連関論 第 15 回 公共選択アプローチの意義と限界			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3135	授業科目名	社会集団・組織論特論II	2022年度第2期
担当者	濱西 栄司	授業形態	講義	2単位
授業概要	<p>本授業の主な目的は、社会学の基礎理論の一つである「社会集団・組織論」の理解を通して、現代社会を捉えるための専門的な視座や技法を修得することにある。授業では、社会集団・組織論（社会学）における代表的な理論として動員論（資源動員論を核としてフレーミング論や政治的機会構造論などを組み合わせた理論体系）をとりあげ、その他の研究パラダイムと比較検討しつつ、方法論的特徴や背景、可能性、限界等について説明し、その修正策やオルタナティブについて議論する。比較検討するしていく。適宜、関連する歴史社会学／社会史的研究（Durkheim、Weber、Friedman、Touraine、Tilly 他）も紹介する。</p>			
到達目標	<p>理論の特徴や背景、可能性、限界について正確に理解し、もってさまざまな社会組織（特にその因果的メカニズム）を分析するための専門的な知識・技能を修得する。</p>			
成績評価基準	レジュメ作成と発表（50%）、期末レポート（50%）			
留意事項				
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・必携テキスト：特になし ・参考書：『資源動員と組織戦略』（新曜社）、『アラン・トゥーレーヌ』（東信堂）、『問いから始める社会運動論』（有斐閣） ・参考資料：適宜、プリントなどを配布する。 			
授業予定	<p>第 1 回 資源動員論の位置 (1) 集合行動論との関係 第 2 回 資源動員論の位置 (2) 資源動員論の意義 第 3 回 動員論の理論的展開 (1) 合理的理論 第 4 回 動員論の理論的展開 (2) 崩壊から連帯へ 第 5 回 動員論の理論的展開 (3) 功利主義的理論 第 6 回 動員論の実証 (1) ジェンダー 第 7 回 動員論の実証 (2) エスニシティ 第 8 回 動員論の実証 (3) 環境問題 第 9 回 動員論の課題 (1) 合理性問題 第 10 回 動員論の課題 (2) ミクロとマクロ 第 11 回 動員論の課題 (3) 実証可能性 第 12 回 動員論の課題 (4) 労働論 第 13 回 動員論の課題 (5) NSM 論 第 14 回 国際的研究の現状 (1) 理論の分裂 第 15 回 国際的研究の将来 (2) 組織から集団へ</p>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3140	授業科目名	社会心理学特論I	2022年度第1期
担当者	土井 隆義	授業形態	講義	2単位
授業概要	社会的格差の拡大や失業率の高さなど、現代青年期をとりまく社会状況は非常に厳しい状況にあります。しかし、その一方で彼らの生活満足度は高く、また幸福感も強まる傾向が見られます。この両者のギャップはどのように理解すればよいのでしょうか。この授業では、その社会心理学的な解明を試みます。			
到達目標	現代日本の青年層に特徴的に見受けられる意識の特徴と、そこから派生する諸問題の社会心理的側面について、後期近代という社会背景から理解することを目指します。			
成績評価基準	講義の理解度とその知識を現実の問題へ応用する能力をレポートで評価します。			
留意事項	授業中はぜひ積極的に質問し、自分に関心のあるトピックへの応用方法を考えてください。			
教材	とくに指定しません。授業中に、講義の内容に関連する参考文献を順次紹介します。			
授業予定	第 1 回 プロローグ～いま、青年とは誰のことなのか～ 第 2 回 青年期の社会的格差（1）～劣化する経済的基盤～ 第 3 回 青年期の社会的格差（2）～社会制度と格差化～ 第 4 回 流動化する現代社会（1）～青年期の幸福と不安～ 第 5 回 流動化する現代社会（2）～人間関係の規制緩和～ 第 6 回 リスク化する人間関係（1）～アノミー化する人間関係～ 第 7 回 リスク化する人間関係（2）～人間関係の新たなジレンマ～ 第 8 回 ポスト近代化の時代（1）～成長社会から成熟社会へ～ 第 9 回 ポスト近代化の時代（2）～フラット化する世界～ 第 10 回 変貌する承認の構図（1）～世代間格差の変容～ 第 11 回 変貌する承認の構図（2）～自由から承認へ～ 第 12 回 青年期の新たな心性（1）～生活圏の内閉化～ 第 13 回 青年期の新たな心性（2）～新しい幸福観の勃興～ 第 14 回 反転する時代精神（1）～生活圏の分断化～ 第 15 回 反転する時代精神（2）～新しい人間観の陥穽～			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3145	授業科目名	社会心理学特論II	2022年度第1期
担当者	土井 隆義	授業形態	講義	2単位
授業概要	日本の犯罪動向を題材として取り上げ、その増減が示唆する社会心理学的な含意について考察します。また、犯罪を統制する側の社会がどんなロジックを有しているのか、その社会心理学的側面についても考察を行います。			
到達目標	逸脱という社会現象を素材にして、社会心理学的なもの見方・考え方を解説します。「逸脱をなくす」という当為の問題としてではなく、「逸脱をとおして社会を知る」という存在の問題として犯罪現象を扱います。			
成績評価基準	講義の理解度とその知識を現実の問題へ応用する能力をレポートで評価します。			
留意事項	授業中はぜひ積極的に質問し、自分に関心のあるトピックへの応用方法を考えてください。			
教材	とくに指定しません。授業中に、講義の内容に関連する参考文献を順次紹介します。			
授業予定	第 1 回 プロローグ～社会的逸脱とはどんな現象なのか～ 第 2 回 逸脱行動と社会統制（1）～社会的逸脱とは何か～ 第 3 回 逸脱行動と社会統制（2）～人格崇拜のアポリア～ 第 4 回 社会統制という変数（1）～社会統制の潜在機能～ 第 5 回 社会統制という変数（2）～認知バイアスの陥穽～ 第 6 回 社会病理と個人病理（1）～社会的属性と選択的統制～ 第 7 回 社会病理と個人病理（2）～社会的リアリティの変容～ 第 8 回 逸脱行動の社会心理的要因（1）～社会的凝集性という変数～ 第 9 回 逸脱行動の社会心理的要因（2）～社会的期待値という変数～ 第 10 回 後期近代の逸脱行動（1）～近代社会のエートス～ 第 11 回 後期近代の逸脱行動（2）～文化的遅滞の構図～ 第 12 回 後期近代の逸脱行動（3）～近代エートスの変容～ 第 13 回 後期近代の社会統制（1）～規律訓練から環境管理へ～ 第 14 回 後期近代の社会統制（2）～セキュリティ社会の陥穽～ 第 15 回 エピローグ～後期近代における逸脱と統制のゆくえ～			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3150	授業科目名	宗教社会学特論I	2022年度第1期
担当者	福田 雄	授業形態	講義	単位数
授業概要	宗教社会学の古典的文献を学習し、社会文化に関する洞察を得るとともに、現代宗教にかんする実証的研究と対比させながら、その現代的意義を確認する。マックス・ヴェーバー、エミール・デュルケームを中心にとりあげる。			
到達目標	宗教社会学の古典的研究における問題関心（近代化と世俗化）を理解し、その限界と可能性を吟味することができる。 上記の課題を踏まえたうえで、現代社会に応用することができる。			
成績評価基準	レポート（60%）および授業への取り組み姿勢（40%） 前者は、古典文献の読解と要約を課す。後者は現代社会への展開可能性についての議論内容。			
留意事項				
教材	『マックス・ヴェーバー 宗教社会学論集 第1巻上（北海道大学出版会、デュルケーム『宗教生活の基本形態 上・下』（ちくま学芸文庫、2014年）9. ～12年） 2. ～ 5.			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 「緒言」 3. 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 I 問題」 4. 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 II 禁欲主義的プロテスタンティズムの天職倫理」 5. 「プロテスタント諸信団と資本主義の精神」 6. Parsons, T. 1966 "Introduction" in Max Weber, The Sociology of Religion. Beacon Press 7. ヴェーバー「世界宗教の経済倫理 序論」『宗教社会学論選』 8. 「苦難の神義論と災禍をめぐる記念行事」『宗教と社会』24：65-80 9. 「序論」 10. 「第一部 前提問題」 11. 「第二部 基本的信念」 12. 「第三部 主要な儀礼的態度」 13. ウォーナー、W. L. 「アメリカの神聖な儀式の象徴的分析」『アメリカ人の生活構造』 14. 岡崎宏樹「社会学と哲学」『日仏社会学年報』26：69-90 15. 振り返りと総括 			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3155	授業科目名	宗教社会学特論II	2022年度第2期
担当者	福田 雄	授業形態	講義	2単位
授業概要	宗教社会学の古典的文献の背景にある方法論を学習し、当時の文脈における問題関心に照らし合わせながら批判的検討を行う。さらに現代社会を分析するにあたっての展開の可能性を検討する。			
到達目標	宗教社会学の古典的研究における問題関心とその方法論を理解し、その限界と可能性を吟味することができる。 上記の課題を踏まえたうえで、現代社会に応用することができる。			
成績評価基準	レポート（60%）および授業への取り組み姿勢（40%） 前者は、古典文献の読解と要約を課す。後者は現代社会への展開可能性についての議論内容。			
留意事項				
教材	デュルケーム『社会学的方法の基準』（講談社学術文庫、2018年）5. ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年）8. ヴェーバー『仕事としての学問 仕事としての政治』（講談社学術文庫、2018年）9. 盛山和夫『社会学的方法的立場』（東京大学出版会、2013年）6.13. 厚東洋輔『〈社会的なもの〉の歴史』（東京大学出版会、2020年）7.14			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 友枝敏雄「社会学の方法」『社会学の力』 3. 菊谷和宏「トクヴィルとデュルケーム」『社会学評論』49(2): 172-187 4. 山崎亮「『宗教生活の基本形態』の宗教学的読解」『デュルケーム宗教学思想の研究』 5. 『社会学的方法の基準』 6. 盛山和夫「社会的事実とは何か」『社会学的方法的立場』 7. 厚東洋輔「デュルケームと道徳の「実証科学」」『〈社会的なもの〉の歴史』 8. 『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』 9. 『仕事としての学問 仕事としての政治』 10. マイヤー「歴史の理論と方法」『歴史は科学か』 11. ヴェーバー「文化科学の論理学の領域における批判的研究」『歴史は科学か』 12. 佐藤俊樹「社会科学とは何か」『社会科学と因果分析』 13. 盛山和夫「理念型という方法」『社会学的方法的立場』 14. 厚東洋輔「ヴェーバーと合理主義の社会学」『〈社会的なもの〉の歴史』 15. 振り返りと総括 			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3210	授業科目名	社会学演習I	2022年度第1期
担当者	山下 美紀	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者が選んだ研究課題に取り組むために必要な研究方法と調査の手法・過程について具体的に学ぶ。社会学に関連するテーマを扱い、研究課題を選び、関連する先行研究を理解し、研究課題に沿って調査研究の方法と考え方を読解する。			
到達目標	到達目標1：社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。 到達目標2：先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。 到達目標3：必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回 社会学における学術研究について 第2回 研究課題（仮）の設定 第3回 先行研究：文献の収集 第4回 先行研究：批判的検討 第5回 先行研究：今後の課題 第6回 研究課題の設定 第7回 研究の方法 第8回 調査・分析の方法 第9回 調査の実施に向けて：計画を立てる 第10回 調査の実施について 第11回 調査データの整理 第12回 調査データの分析 第13回 分析結果の考察 第14回 分析結果の考察：先行研究との関係 第15回 研究論文の構成、執筆について 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3215	授業科目名	社会学演習II	2022年度第2期
担当者	山下 美紀	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。			
到達目標	到達目標1：設定した課題について、適切な調査を行うことができる。 到達目標2：調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。 到達目標3：研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成できる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回 社会学における学術研究について 第2回 研究課題の設定 第3回 研究方法・調査論について 第4回 研究論文の構成とルール 第5回 調査の実施計画 第6回 調査の実施について 第7回 調査結果の報告：全体状況 第8回 調査結果の報告：フィールド等 第9回 調査結果の報告とコメント 第10回 調査成果の整理 第11回 調査成果の整理と考察 第12回 研究論文の執筆：概要 第13回 研究論文の執筆：前半 第14回 研究論文の執筆：後半 第15回 まとめ 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3217	授業科目名	社会学演習I	2022年度第1期
担当者	二階堂 裕子	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者が選んだ研究課題に取り組むために必要な研究方法と調査の手法・過程について具体的に学ぶ。社会学に関連するテーマを扱い、研究課題を選び、関連する先行研究を理解し、研究課題に沿って調査研究の方法と考え方を読解する。			
到達目標	到達目標1：社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。 到達目標2：先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。 到達目標3：必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回：社会学における学術研究について 第2回：研究課題（仮）の設定 第3回：先行研究：文献の収集 第4回：先行研究：批判的検討 第5回：先行研究：今後の課題 第6回：研究課題の設定 第7回：研究の方法 第8回：調査・分析の方法 第9回：調査の実施に向けて：計画を立てる 第10回：調査の実施について 第11回：調査データの整理 第12回：調査データの分析 第13回：分析結果の考察 第14回：分析結果の考察：先行研究との関係 第15回：研究論文の構成、執筆について 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3218	授業科目名	社会学演習II	2022年度第2期
担当者	二階堂 裕子	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで、研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。			
到達目標	到達目標1：設定した課題について、適切な調査を行うことができる。 到達目標2：調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。 到達目標3：研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成ができる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回：社会学における学術研究について 第2回：研究課題の設定 第3回：研究方法・調査論について 第4回：研究論文の構成とルール 第5回：調査の実施計画 第6回：調査の実施について 第7回：調査結果の報告：全体状況 第8回：調査結果の報告：フィールド等 第9回：調査結果の報告とコメント 第10回：調査成果の整理 第11回：調査成果の整理と考察 第12回：研究論文の執筆：概要 第13回：研究論文の執筆：前半 第14回：研究論文の執筆：後半 第15回：まとめ 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3220	授業科目名	社会学演習I	2022年度第1期
担当者	濱西 栄司	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者が選んだ研究課題に取り組むために必要な研究方法と調査の手法・過程について具体的に学ぶ。社会学に関連するテーマを扱い、研究課題を選び、関連する先行研究を理解し、研究課題に沿って調査研究の方法と考え方を読解する。			
到達目標	①社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。 ②先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。 ③必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回：社会学における学術研究について 第2回：研究課題（仮）の設定 第3回：先行研究：文献の収集 第4回：先行研究：批判的検討 第5回：先行研究：今後の課題 第6回：研究課題の設定 第7回：研究の方法 第8回：調査・分析の方法 第9回：調査の実施に向けて：計画を立てる 第10回：調査の実施について 第11回：調査データの整理 第12回：調査データの分析 第13回：分析結果の考察 第14回：分析結果の考察：先行研究との関係 第15回：研究論文の構成、執筆について 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3225	授業科目名	社会学演習II	2022年度第2期
担当者	濱西 栄司	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで、研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。			
到達目標	①設定した課題について、適切な調査を行うことができる。 ②調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。 ③研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成ができる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回：社会学における学術研究について 第2回：研究課題の設定 第3回：研究方法・調査論について 第4回：研究論文の構成とルール 第5回：調査の実施計画 第6回：調査の実施について 第7回：調査結果の報告：全体状況 第8回：調査結果の報告：フィールド等 第9回：調査結果の報告とコメント 第10回：調査成果の整理 第11回：調査成果の整理と考察 第12回：研究論文の執筆：概要 第13回：研究論文の執筆：前半 第14回：研究論文の執筆：後半 第15回：まとめ 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3310	授業科目名	日本社会史特論I	2022年度第1期
担当者	西尾 和美	授業形態	講義	2単位
授業概要	本授業では、日本中世を中心に、社会を生きる人びとの営みの前提となった生存環境の中から、地震、飢饉、疫病をテーマとして取り上げ、史料と先行研究の講読・検討により授業を進める。それにより、多角的な視野に立った学識と高等能力を身につける。			
到達目標	到達目標1： 授業で取り上げる諸テーマに関する史料を解読・分析することができる。 到達目標2： 授業で取り上げる諸テーマに関する専門研究を講読・検討できる。 到達目標3： 授業で取り上げる諸テーマにつき、自らの考察を述べるることができる。			
成績評価基準	・事前学習課題（1回目・7回目に提示）2回 各回 20% × 2（到達目標1・2） ・定期試験（期末レポート）60%（到達目標1～3）			
留意事項	本授業を履修する者は、講義が事前学習を前提として、史料と関連の専門文献の検討を中心に進められることを十分留意の上、受講してほしい。			
教材	レジュメ・史料プリントを配付する。講読文献・参考文献は随時、指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：「日本中世の生存環境」 2. 歴史地震について 3. 中世以前の地震 4. 中世前期の地震 5. 中世後期の地震 6. 戦国・織豊期の地震 7. 中世以後の歴史地震 8. 日本中世の気候と飢饉 9. 中世前期の飢饉 10. 中世後期の飢饉 11. 戦国期の飢饉 12. 飢饉と疫病 13. 施行 14. 施餓鬼 15. 総括「日本中世の生存環境」 16. 定期試験 			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3315	授業科目名	日本社会史特論II	2022年度第2期
担当者	西尾 和美	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、日本中世社会の人びとがどのような思惟と心性のもとで生きたのかをテーマとして、史料と先行研究の講読・検討により授業を進める。それにより、多角的な視野に立った学識と高等能力を身につける。			
到達目標	到達目標1： 授業で取り上げる諸テーマに関する史料を解読・分析することができる。 到達目標2： 授業で取り上げる諸テーマに関する専門研究を講読・検討することができる。 到達目標3： 授業で取り上げる諸テーマにつき、自らの考察を述べることができる。			
成績評価基準	・事前学習課題（1回目・7回目に提示）2回 各回 20% × 2（到達目標1・2） ・定期試験（期末レポート）60%（到達目標1～3）			
留意事項	本授業を履修する者は、講義が事前学習を前提として、史料と関連の専門文献の検討を中心に進められることを十分留意の上、受講してほしい。			
教材	レジュメ・史料をプリント配付する。講読文献・参考文献は随時、指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論「日本中世の思惟と心性」 2. 中世宗教の成立 3. 現世安穩・後世善処 4. 罪と罰の宗教 5. 六道輪廻と極楽 6. 出家・遁世 7. 中世の人びとの思惟と宗教 8. 中世の人びとと「泣き」 9. 中世の人びとの「怒り」と暴力 10. 中世の人びとの「怨み」 11. 身分と言語 12. 地域と言語 13. 声としぐさ 14. 中世の人びとの心性と身分・地域 15. 総括「日本中世の思惟と心性」 16. 定期試験 			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3320	授業科目名	日本社会史特論III	2022年度第1期
担当者	久野 洋	授業形態	講義	2単位
授業概要	本授業では、明治期日本の地域社会の動向に視点を据えて、日本社会の近代化の特徴を考える。その際、岡山地域を具体的なフィールドに設定して考察を進める。			
到達目標	到達目標1 日本社会の近代化の特徴を説明できる。 到達目標2 歴史学における地域史研究の意義を説明できる。			
成績評価基準	授業への取り組み度（出席・発言・発表）と課題レポート等により、総合的に評価する。			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. さまざまな明治維新 3. 身分制の解体 4. 文明開化と民衆宗教 5. 徴兵令と血税一揆 6. 自由民権運動と岡山地域 7. 地方名望家と殖産興業 8. 地方名望家と地方行政 9. 地方名望家と明治地方自治制 10. 議会制の導入と社会変容 11. 災害と地域社会 12. 日清・日露戦争と岡山地域 13. 地域資料からみえる帝国日本①（行政文書） 14. 地域資料からみえる帝国日本②（家文書） 15. 総括と展望 			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3325	授業科目名	日本社会史特論IV	2022年度第2期
担当者	久野 洋	授業形態	講義	2単位
授業概要	本授業では、大正・昭和戦前期日本の地域社会の動向に視点を据えて、日本社会の大衆社会化・現代化の特徴を考える。その際、岡山地域を具体的なフィールドに設定して考察を進める。			
到達目標	到達目標1 日本社会の大衆社会化・現代化の特徴を説明できる。 到達目標2 歴史学における地域史研究の意義を説明できる。			
成績評価基準	授業への取り組み度（出席・発言・発表）と課題レポート等により、総合的に評価する。			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 都市化と都市住民 3. 都市問題と都市騒擾 4. 都市民衆騒擾と岡山地域 5. 第一次世界大戦のインパクト 6. 米騒動と岡山地域 7. 労働・農民運動と岡山地域 8. 名望家秩序の変貌 9. 普選体制への転換 10. 恐慌の時代 11. 経済更生運動と農村の組織化 12. 国防婦人会の成立と展開 13. 総力戦体制と国民再組織 14. 戦中・戦後の都市住民 15. 総括と展望 			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3330	授業科目名	アジア社会史特論I	2022年度第1期
担当者	鈴木 真	授業形態	講義	2単位
授業概要	前近代中国における儒学・科挙・宗族の問題を中心に、当時の漢人社会の在りかたについて、歴史学の観点より考察する。			
到達目標	前近代中国における漢人社会の思想的・文化的特徴を、儒学・科挙・宗族の概念を用いて説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式もとり入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：儒教とは何か 第 3 回：五経と四書 第 4 回：中国史における官僚 第 5 回：官僚登用制度の変遷①（漢） 第 6 回：官僚登用制度の変遷②（魏晋） 第 7 回：官僚登用制度の変遷③（南北朝） 第 8 回：科挙の導入と理念 第 9 回：科挙がもたらした政治的影響 第 10 回：科挙がもたらした思想的影響 第 11 回：科挙がもたらした社会的影響 第 12 回：科挙の隆盛と宗族の形成 第 13 回：宗族と中国社会 第 14 回：科挙の終焉 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3335	授業科目名	アジア社会史特論II	2022年度第2期
担当者	鈴木 真	授業形態	講義	2単位
授業概要	清代中国における儒学・科挙の問題を中心に、当時の旗人社会と漢人社会との相違について講義する。			
到達目標	旗人社会と漢人社会とを比較し、その思想的・文化的特徴の相違点を説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式もとり入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：大清帝国の誕生 第 3 回：旗人と民人 第 4 回：辮髪と科挙 第 5 回：江南社会と「南巡」 第 6 回：大清における思想統制 第 7 回：大清における「文字の獄」①（康熙年間） 第 8 回：大清における「文字の獄」②（雍正年間） 第 9 回：大清における「文字の獄」③（乾隆年間） 第 10 回：旗人と翻訳科挙 第 11 回：満洲旗人と文学 第 12 回：華夷思想と『大義覚迷録』 第 13 回：科挙と『儒林外史』 第 14 回：官僚と『官場現形記』 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3340	授業科目名	ヨーロッパ社会史特論I	2022年度第1期
担当者	轟木 広太郎	授業形態	講義・演習	2単位
授業概要	古代ギリシア・ローマ社会について道德の歴史を考える。教義や制度の歴史ではなく、それを貫くようにして人と人との関係がどのように構想・実践されてきたのかを、とくに自己と性という観点から検討する。			
到達目標	社会史のひとつの分野をどのように構想すればよいかについてヴィジョンを持てるようになる。また、過去の社会と現代の社会との比較の視点を獲得する。			
成績評価基準	レポート 70%、報告 30%			
留意事項	ある程度演習形式を取り入れる。			
教材	参考文献等については授業中に配布する。			
授業予定	第 1 回 道德の歴史のための導入 第 2 回 古代ギリシア社会についての概説 第 3 回 古代ギリシアの自己と性；自己 第 4 回 古代ギリシアの自己と性；身体 第 5 回 古代ギリシアの自己と性；女性 第 6 回 古代ギリシアの自己と性；少年愛 第 7 回 古代ギリシアの自己と性；プラトン 第 8 回 古代ギリシアの自己と性；まとめ 第 9 回 古代ローマ社会についての概説 第 10 回 古代ローマの自己と性；自己 第 11 回 古代ローマの自己と性；身体 第 12 回 古代ローマの自己と性；女性 第 13 回 古代ローマの自己と性；少年愛 第 14 回 古代ローマの自己と性；ストア派 第 15 回 古代ローマの自己と性；まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3345	授業科目名	ヨーロッパ社会史特論II	2022年度第2期
担当者	轟木 広太郎	授業形態		2単位
授業概要	古代末期から中世にかけてのキリスト教的な道德の歴史を考える。教義や制度の歴史ではなく、それを貫くようにして人と人との関係がどのように構想・実践されてきたのかを、とくに自己と性という観点から検討する。			
到達目標	社会史のひとつの分野をどのように構想すればよいかについてヴィジョンを持てるようになる。また、過去の社会と現代の社会との比較の視点を獲得する。			
成績評価基準	レポート20%、報告80%			
留意事項	ある程度演習形式を取り入れる。			
教材	参考文献等については授業中に配布する。			
授業予定	第 1 回 道德の歴史のための導入 第 2 回 初期キリスト教の自己と性；司牧 第 3 回 初期キリスト教の自己と性；生殖 第 4 回 初期キリスト教の自己と性；身体 第 5 回 初期キリスト教の自己と性；洗礼 第 6 回 初期キリスト教の自己と性；贖罪 第 7 回 初期キリスト教の自己と性；修道生活 第 8 回 初期キリスト教の自己と性；処女 第 9 回 初期キリスト教の自己と性；結婚 第 10 回 初期キリスト教の自己と性；アウグスティヌス 第 11 回 中世の自己と性；贖罪の変遷 第 12 回 中世の自己と性；結婚 第 13 回 中世の自己と性；アベラールとエロイズ（事件） 第 14 回 中世の自己と性；アベラールとエロイズ（史料） 第 15 回 中世の自己と性；アベラールとエロイズ（導き）			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3350	授業科目名	日本民俗学特論I	2022年度第1期
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義	単位数
授業概要	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について講ずる。まず前提として民俗学の基本的な立脚点、および〈民俗〉概念について考察し、ついで、民俗宗教の各領域の研究成果を検討してゆく。			
到達目標	民俗学の立脚点を理解するとともに、とくに民俗宗教に関する基本的な知識に立って日本の民俗文化および宗教文化を理解できるようになることを目指す。あわせて、民俗学の論文の読解力の向上を目指す。			
成績評価基準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。			
留意事項	一部、演習形式もとりいれ、文献の講読と発表を義務づける。			
教材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学的認識の誕生 2. 柳田國男の仕事 3. 〈民俗〉と〈文化〉, 〈民俗〉と〈生活〉 4. フォークロリズムをめぐる議論 5. 民俗宗教とは 6. ムラと村落祭祀 7. 村組と地縁集団の祭祀 8. 宮座と当屋制 9. 同族と同族祭祀 10. 先祖祭祀 11. 年中行事の構造 12. 人の一生と靈魂観 13. 祭儀と祝祭 14. 神がかりとシャーマニズム 15. 〈俗信〉という概念 			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3355	授業科目名	日本民俗学特論II	2022年度第2期
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義	2単位
授業概要	<p>遍歴という行動様式と遍歴者の存在に注目し、日本の社会におけるその諸相を探る。とくに定住と遍歴の接点にある〈巡礼〉のさまざまなあり様をめぐり、考察する。</p>			
到達目標	<p>日本の社会における種々の遍歴の実態を知るとともに、民俗宗教が遍歴と定住の交渉を重要な契機の一つとして成り立っていることが理解できることを目指す。</p>			
成績評価基準	<p>期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。</p>			
留意事項	<p>一部、演習形式もとりいれ、文献の講読と発表を義務づける。</p>			
教材	<p>必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。</p>			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 漂泊・遍歴の諸相 2. 巡礼という回路 3. 巡礼類型論 4. プロの巡礼、アマチュアの巡礼 5. 地域的小巡礼とめぐりの習俗 6. 社会的弱者の巡礼 7. ハンセン病と巡礼 8. 乞食巡礼の民俗 9. もの乞いの思想 10. 六十六部日本廻国 11. 持経者の遍歴と如法経信仰 12. 六十六部縁起 13. 王権の神話・儀礼と遍歴 14. 職業的廻国者集団の活動 15. 遍歴と定住の交渉 			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3360	授業科目名	考古学特論I	2022年度第1期
担当者	紺谷 亮一	授業形態	講義	2単位
授業概要	縄文、弥生、古墳時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、日本考古学上の問題にせまる。			
到達目標	縄文から古墳時代の考古学事例を通して、日本の古代社会成立のプロセスとその要因について説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：縄文時代の起源とその展開 第 3 回：縄文海進の影響について 第 4 回：三内丸山遺跡の衣食住 第 5 回：縄文時代関連の論文講読 第 6 回：弥生時代の起源とその展開 第 7 回：高地性集落と環濠集落の出現 第 8 回：纏向遺跡の集落構造 第 9 回：弥生時代関連の論文講読 第 10 回：古墳の起源とその展開 第 11 回：前方後円墳とは何か 第 12 回：造山古墳の考古学的位置付け 第 13 回：古代吉備と古代出雲の関係について 第 14 回：古墳時代関連の論文講読 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3365	授業科目名	考古学特論II	2022年度第2期
担当者	紺谷 亮一	授業形態		2単位
授業概要	西アジアの先史時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、西アジアの考古学上の問題にせまる。			
到達目標	西アジアの先史時代の考古学事例を通して、都市国家成立のプロセスとその要因について説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：西アジアにおける農耕の起源 第 3 回：西アジアにおける牧畜の起源 第 4 回：ギョベックリテペ遺跡のインパクト 第 5 回：新石器時代関連の論文講読 第 6 回：西アジアにおける都市の発生 第 7 回：西アジアにおける交易の複雑化 第 8 回：ウルク遺跡、テル・ブラク遺跡の特徴 第 9 回：都市の起源に関する論文講読 第 10 回：都市国家成立の背景 第 11 回：農耕生産力・鉱物資源の考古学的評価 第 12 回：キュルテペ遺跡の発掘成果①銅石器時代 第 13 回：キュルテペ遺跡の発掘成果②青銅器時代 第 14 回：キュルテペ遺跡に関する論文講読 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3410	授業科目名	社会史演習I	2022年度第1期
担当者	紺谷 亮一	授業形態	演習	2単位
授業概要	日本の縄文時代、弥生時代の著名な遺跡を取り上げ、各遺跡の特徴を概観しながら、日本考古学上の問題にせまる。			
到達目標	縄文時代、弥生時代の考古学事例を通して、日本の先史時代の特徴について説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：縄文時代：三内丸山遺跡の発掘調査 第 3 回：三内丸山遺跡の集落構造 第 4 回：三内丸山遺跡出土の巨大木造建築群 第 5 回：論文講読 第 6 回：弥生時代：吉野ヶ里遺跡の発掘調査 第 7 回：吉野ヶ里遺跡の環濠 第 8 回：吉野ヶ里遺跡の墳丘墓 第 9 回：論文講読 第 10 回：弥生時代：纏向遺跡の発掘調査 第 11 回：纏向遺跡の集落構造 第 12 回：纏向遺跡の掘立柱建築群 第 13 回：箸墓古墳の存在 第 14 回：論文講読 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3415	授業科目名	社会史演習II	2022年度第2期
担当者	紺谷 亮一	授業形態	演習	2単位
授業概要	西アジアの先史時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、西アジアの考古学上の問題にせまる。			
到達目標	西アジアの先史時代の考古学事例を通して、メガサイトおよびメガシティの発生についてその背景を説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：新石器時代：ギョベックリテペ遺跡の発掘調査 第 3 回：ギョベックリテペの集落構造 第 4 回：ギョベックリテペ出土の石製彫刻 第 5 回：論文講読 第 6 回：銅石器時代：アルスランテペ遺跡の発掘調査 第 7 回：アルスランテペ遺跡の公共建築群 第 8 回：アルスランテペ出土の「石棺王墓」 第 9 回：論文講読 第 10 回：青銅器時代：キュルテペ遺跡の発掘調査 第 11 回：キュルテペ遺跡の公共建築群 第 12 回：キュルテペ遺跡の石製偶像 第 13 回：キュルテペ遺跡の先史時代 第 14 回：論文講読 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3420	授業科目名	社会史演習I	2022年度第1期
担当者	西尾 和美	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
到達目標	到達目標1：歴史学的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。 到達目標2：研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。 到達目標3：先行研究を批判的・客観的に読解することができる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。 受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：研究論文とは何か 第2回：先行研究：文献の収集 第3回：先行研究：批判的に読む 第4回：先行研究：不足点と今後の課題 第5回：研究テーマの設定 第6回：研究方針の確定 第7回：調査・分析の方法 第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる 第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう 第10回：史資料調査の実践 第11回：史資料調査のまとめ 第12回：先行研究と自身の研究との比較分析 第13回：自身の研究が解決すべき課題 第14回：研究発表と討論 第15回：研究論文の作成に向けて 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3425	授業科目名	社会史演習II	2022年度第2期
担当者	西尾 和美	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。			
到達目標	到達目標1：実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。 到達目標2：分析結果を客観的・批判的に検討することができる。 到達目標3：上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。 受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正 第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認 第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成 第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認 第5回：収集した史資料の分析：史料批判 第6回：研究テーマを深化させる 第7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化 第8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する 第9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか 第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは 第11回：序論の書き方 第12回：結論の書き方 第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し 第14回：要旨の書き方 第15回：まとめ 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3430	授業科目名	社会史演習I	2022年度第1期
担当者	鈴木 真	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
到達目標	到達目標1：歴史学的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。 到達目標2：研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。 到達目標3：先行研究を批判的・客観的に読解することができる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項	特になし。			
教材	各クラスの授業で指示する。 受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：研究論文とは何か 第2回：先行研究：文献の収集 第3回：先行研究：批判的に読む 第4回：先行研究：不足点と今後の課題 第5回：研究テーマの設定 第6回：研究方針の確定 第7回：調査・分析の方法 第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる 第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう 第10回：史資料調査の実践 第11回：史資料調査のまとめ 第12回：先行研究と自身の研究との比較分析 第13回：自身の研究が解決すべき課題 第14回：研究発表と討論 第15回：研究論文の作成に向けて 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3435	授業科目名	社会史演習II	2022年度第2期
担当者	鈴木 真	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。			
到達目標	到達目標1：実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。 到達目標2：分析結果を客観的・批判的に検討することができる。 到達目標3：上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項	特になし。			
教材	各クラスの授業で指示する。 受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正 第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認 第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成 第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認 第5回：収集した史資料の分析：史料批判 第6回：研究テーマを深化させる 第7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化 第8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する 第9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか 第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは 第11回：序論の書き方 第12回：結論の書き方 第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し 第14回：要旨の書き方 第15回：まとめ 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3440	授業科目名	社会史演習I	2022年度第1期
担当者	轟木 広太郎	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
到達目標	到達目標1：歴史学的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。 到達目標2：研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。 到達目標3：先行研究を批判的・客観的に読解することができる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（50%）、発表（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：研究論文とは何か 第2回：先行研究：文献の収集 第3回：先行研究：批判的に読む 第4回：先行研究：不足点と今後の課題 第5回：研究テーマの設定 第6回：研究方針の確定 第7回：調査・分析の方法 第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる 第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう 第10回：史資料調査の実践 第11回：史資料調査のまとめ 第12回：先行研究と自身の研究との比較分析 第13回：自身の研究が解決すべき課題 第14回：研究発表と討論 第15回：研究論文の作成に向けて 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3445	授業科目名	社会史演習II	2022年度第2期
担当者	轟木 広太郎	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。			
到達目標	到達目標1：実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。 到達目標2：分析結果を客観的・批判的に検討することができる。 到達目標3：上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（50%）、発表（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正 第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認 第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成 第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認 第5回：収集した史資料の分析：史料批判 第6回：研究テーマを深化させる 第7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化 第8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する 第9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか 第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは 第11回：序論の書き方 第12回：結論の書き方 第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し 第14回：要旨の書き方 第15回：まとめ 定期試験 なし			

文学研究科		専攻名(コース名)	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3510	授業科目名	社会言語学特論I	期間	2022年度第1期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	<p>フォーマルな文体を旨とすることから現代においても古典文法や古風な言いまわしが現われやすい校歌の歌詞に注目し、共同作業により校歌を多数収集・蓄積してデータベース化し、履修者が関心を持つ観点からそれぞれ分析することで、校歌の歌詞の現状を多角的に把握する。また、校歌が作られた時代別に分析することで、使用表現の変化の有無や変化の方向性を明らかにする。「社会言語学特論I」では、教材として参照する先行研究を精読し、得られた知見を把握するとともに、データの収集・蓄積に関する検討を経て収集と分析に着手する。</p>				
到達目標	<p>到達目標1：先行研究を理解し説明できる。 到達目標2：研究が計画できる。 到達目標3：研究が実行できる。 到達目標4：分析に着手できる。</p>				
成績評価基準	<p>授業活動内容：50% 研究レポート：50%</p>				
留意事項	<p>PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。</p>				
教材	<p>尾崎喜光・杉尾瞭子（2015）「校歌の歌詞に関する言語学的研究-倉敷市の公立学校の場合-」（『清心語文』第17号）</p>				
授業予定	<p>第1回：ガイダンス 第2回：文献の精読と解説（1）-第1章、第2章- 第3回：文献の精読と解説（2）-第3章- 第4回：文献の精読と解説（3）-第4章第1節- 第5回：文献の精読と解説（4）-第4章第2節、第5章- 第6回：研究計画の検討（1）-調査対象等の検討- 第7回：研究計画の検討（2）-修正案の作成- 第8回：研究計画の検討（3）-確定をめざす- 第9回：予備的調査の結果報告と検討 第10回：データベースの枠組みに関する提案と検討（1） 第11回：データベースの枠組みに関する提案と検討（2）-確定をめざす- 第12回：修正計画による予備的調査結果報告と検討 第13回：本調査着手の結果報告と検討（1） 第14回：本調査の結果報告と検討（1） 第15回：本調査の結果報告と検討（2）</p>				

文学研究科		専攻名(コース名)	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3515	授業科目名	社会言語学特論II	期間	2022年度第2期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	<p>フォーマルな文体を旨とすることから現代においても古典文法や古風な言いまわしが現われやすい校歌の歌詞に注目し、共同作業により校歌を多数収集・蓄積してデータベース化し、履修者が関心を持つ観点からそれぞれ分析することで、校歌の歌詞の現状を多角的に把握する。また、校歌が作られた時代別に分析することで、使用表現の変化の有無や変化の方向性を明らかにする。「社会言語学特論II」では、データの収集・蓄積に関する再検討を経てさらにデータを収集し、最終的な分析を行なう。</p>				
到達目標	<p>到達目標1：先行研究を理解し説明できる。 到達目標2：研究が計画できる。 到達目標3：研究が実行できる。 到達目標4：分析に着手できる。</p>				
成績評価基準	<p>授業活動内容：50% 研究レポート：50%</p>				
留意事項	<p>PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。</p>				
教材	<p>なし。</p>				
授業予定	<p>第1回：ガイダンス 第2回：研究の微修正の有無に関する検討 第3回：本調査の結果報告と検討（1）-校種別分析- 第4回：本調査の結果報告と検討（2）-校歌制定年別分析- 第5回：本調査の結果報告と検討（3）-学校設立年別分析- 第6回：本調査の結果報告と検討（4）-地域別分析- 第7回：分析資料（図表）の作成に関する解説 第8回：本調査の結果報告と検討（5）-校種別再分析- 第9回：本調査の結果報告と検討（6）-校歌制定年別再分析- 第10回：本調査の結果報告と検討（7）-学校設立年別再分析- 第11回：本調査の結果報告と検討（8）-地域別再分析- 第12回：総合分析の報告と検討 第13回：総合分析の報告と再検討 第14回：総合分析の報告と検討-レポート作成をめざして- 第15回：総合分析の報告と再検討-レポート作成をめざして-</p>				

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3520	授業科目名	社会文学特論I	2022年度第1期
担当者	綾目 広治	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	大正期から戦前昭和期に至るまでの文芸批評史を展望する。代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのか、さらにそれらの問題と社会との関わりについて考察する。さらに大衆小説に焦点を絞って、作家や出版者さらに読者などからなる出版文化と、その歴史的意義についても考察する。従って、この講義は社会的な視野から見た現代文学史の講義であり、また、広い意味での現代社会思想史でもある。			
到達目標	社会の問題と関わる現代批評、現代思想についての展望を得る。			
成績評価基準	演習での発表。			
留意事項	当該テキスト以外にも関連文献を幅広く読む。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学研究方法論 2. 大正期の批評 3. 昭和初期の批評 4. 昭和十年代の批評 5. 批評理論 			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3525	授業科目名	社会文学特論II	2022年度第2期
担当者	綾目 広治	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	第I期に続き、日本近代文学の中での代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのかを考察し、さらに広くは現代の社会思想史における観点からの考察もしていく。したがって、この講義は社会的な観点からの現代文学史であり、日本における現代社会思想史についての授業でもある。			
到達目標	社会の問題と関わる現代批評、現代思想についての展望を得る。			
成績評価基準	演習での発表。			
留意事項	当該テキスト以外にも関連文献を幅広く読むこと。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	1、戦後期の批評 2、1960年代までの批評 3、1980年代までの批評 4、2000年代までの批評 5、現代の批評			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3530	授業科目名	社会文学特論III	2022年度第1期
担当者	広瀬 佳司	授業形態	講義	単位数
授業概要	日本におけるユダヤ人の歴史を紐解き、日本とユダヤ世界の関係を考察する。20世紀のアメリカのユダヤ文化をめぐる諸問題を明らかにしていく。アメリカ社会と東欧社会の対比も見る。			
到達目標	日本語・英語の文献も読み国際的な視野を広げる。			
成績評価基準	毎授業の発表内容やレポートを総合的に判断する。レポート1回（70%） 発表内容 30%			
留意事項	前期は日本とユダヤ人の関係を深く考える。 日本におけるユダヤ人の歴史とホロコーストの歴史も考察する。			
教材	小辻節三「東京からエルサレムへ」 広瀬佳司『ユダヤ世界に魅せられて』			
授業予定	第1回 授業全体の概要 第2回 日本人とユダヤ人 第3回 日本におけるユダヤ人の歴史 第4回 日本におけるユダヤ教会 第5回 アメリカ映画「シンドラーのリスト」とホロコースト 第6回 アメリカ映画「屋根の上のバイオリン弾き」と日本での受容 第7回 杉原千畝とユダヤ人救助 第8回 小辻節三とユダヤ人救助（1） 第9回 小辻節三とユダヤ人救助（2） 第10回 小辻節三の「東京からエルサレムへ」を読む（1） 第11回 小辻節三の「東京からエルサレムへ」を読む（2） 第12回 小辻節三の「東京からエルサレムへ」を読む（3） 第13回 小辻節三の「東京からエルサレムへ」を読む（4） 第14回 アメリカ社会におけるユダヤ人問題 第15回 ホロコーストを考える 第16回 定期試験			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3535	授業科目名	社会文学特論IV	2022年度第2期
担当者	広瀬 佳司	授業形態	講義	単位数
授業概要	ポーランド生まれの米国ノーベル賞作家であるアイザック・シンガーのユダヤ民話や小説を通して日本民話との類似点と相違点を比較考察する。			
到達目標	文学作品の書かれた文化的。社会的な背景を見ながら作品を読む力を養う。			
成績評価基準	毎授業の発表内容やレポートを総合的に判断する。レポート1回（70%） 発表内容 30%			
留意事項	主には日本語の翻訳を用いますが、原文の英語も読みますのでしっかりと予習をすること。			
教材	広瀬佳司『ユダヤ世界に魅せられて』、他プリント。			
授業予定	第 1 回 授業全体の概要と作家の背景 第 2 回 ユダヤ教とアイザック・シンガー 第 3 回 アイザック・シンガーの描く民話 第 4 回 アイザック・シンガーとその息子 第 5 回 アイザック・シンガー短編「馬鹿者ギンペル」（1） 第 6 回 アイザック・シンガー短編「馬鹿者ギンペル」（2） 第 7 回 アイザック・シンガー短編「馬鹿者ギンペル」（3） 第 8 回 アイザック・シンガーとイディッシュ語作家 第 9 回 東欧・ロシアの戦前に用いられた死語となりつつあるイディッシュ語の意味（1） 第 10 回 東欧・ロシアの戦前に用いられた死語となりつつあるイディッシュ語の意味（2） 第 11 回 アメリカ社会におけるイディッシュ語 第 12 回 アメリカ英語とイディッシュ語 第 13 回 ハリウッド英語にイディッシュ語がいかに用いられているか（1） 第 14 回 ハリウッド英語にイディッシュ語がいかに用いられているか（2） 第 15 回 まとめ			

文学研究科 (修士課程)		専攻名(コース名)	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3550	授業科目名	社会倫理学特論I	期間	2022年度第1期
担当者	崎川 修	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	「いのち」のケアをめぐる社会倫理的な問題を、いわゆる「生命倫理」を起点としつつ、その哲学的基盤や思想史的背景をひも解きながら考察する。それらの問題の構造的契機である「生の統治」と、その非人間性に注目しつつ、より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を、カトリックの社会教説のうちに探っていく。				
到達目標	生命倫理の諸問題についての知識を、その構造的契機や社会背景と結び付けて理解すること、またこれらの課題への応答を可能にする統合的な人間理解に到達すること。				
成績評価基準	授業時の発表、レポートの内容および授業態度などを総合して評価する。				
留意事項	特になし。				
教材	受講者と相談の上決定する。				
授業予定	第 1 回：「いのち」のケアをめぐる倫理的問い 第 2 回：生命倫理の問題圏 第 3 回：統治される生と死 第 4 回：出生前診断と人工妊娠中絶 第 5 回：人工生殖技術の諸問題 第 6 回：クローン技術の諸問題 第 7 回：参加者の発表と討論 第 8 回：反出生主義とは何か 第 9 回：生の否定の思想史 第 10 回：生殖技術と反出生主義 第 11 回：グリーフケアと「いのち」の倫理 第 12 回：終末期ケアの諸問題 第 13 回：生と死の尊厳をめぐる 第 14 回：参加者の発表と討論 第 15 回：総括				

文学研究科 (修士課程)		専攻名(コース名)	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3555	授業科目名	社会倫理学特論II	期間	2022年度第2期
担当者	崎川 修	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	「いのち」のケアをめぐる社会倫理的な問題を、それらの問題の構造的契機である「生の統治」と、その非人間性に注目しつつ、カトリックの社会教説のうちに、より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を探っていく。				
到達目標	生命倫理の諸問題についての知識を、その構造的契機や社会背景と結び付けて理解すること、またこれらの課題への応答を可能にする統合的な人間理解に到達すること。				
成績評価基準	授業時の発表、レポートの内容および授業態度などを総合して評価する。				
留意事項	特になし。				
教材	『回勅 ラウダート・シ』教皇フランシスコ、カトリック中央協議会、2016他、受講者と相談の上決定する。				
授業予定	第 1 回：「いのち」のケアの射程 第 2 回：カトリック社会教説における「いのち」 第 3 回：回勅「フマーネ・ヴィテ」（教皇パウロ 6 世） 第 4 回：回勅「いのちの福音」（教皇ヨハネ・パウロ 2 世） 第 5 回：回勅「ラウダート・シ」（教皇フランシスコ） 第 6 回：「ラウダート・シ」を読む（第 1 章） 第 7 回：「ラウダート・シ」を読む（第 2 章） 第 8 回：「ラウダート・シ」を読む（第 3 章） 第 9 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」前半部） 第 10 回：「ラウダート・シ」を読む（第 4 章） 第 11 回：「ラウダート・シ」を読む（第 5 章） 第 12 回：「ラウダート・シ」を読む（第 6 章） 第 13 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」後半部） 第 14 回：環境思想と生命倫理～「くらし」からみる「いのち」 第 15 回：総括				

文学研究科（修士課程）		専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3570	授業科目名	社会・地理歴史科教育特論I	期間	2022年度第1期
担当者	森 泰三	授業形態	講義（演習を含む）	単位数	2単位
授業概要	アクティブラーニングをはじめとする学校教育で求められている指導法の特徴を講義するとともに、社会科・地理歴史科教育に必要なフィールドワークの指導法を、実践を通じて学ぶ。また、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育のあり方について、演習を交え地理学的視野から考察する。				
到達目標	社会科・地理歴史科教育における最新の指導法の研究と地理指導のための資質・能力の向上をテーマとして授業を進める。それにより、社会科および地理歴史科教育に必要な指導技術であるフィールドワークや多様な地図資料を活用した教育方法を考察し、中学校や高等学校において積極的にアクティブラーニングを導入した授業が展開できる能力を習得する。また、地理学の素養を高め、社会科・地理歴史科教育で求められている高度な専門的資質と能力を身につける。				
成績評価基準	授業時の発表（40％）・レポートの内容（40％）・指導技術の習得状況（20％）により評価する。				
留意事項	授業時間外に学外でフィールドワークを行う。				
教材	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編（文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編（文部科学省）、そのほか授業時に必要資料を配布する。				
授業予定	第1回 社会科・地理歴史科指導法の現状と課題 第2回 アクティブラーニングの指導法と特徴 第3回 地域調査方法論-巡検学習・地域調査の特徴と課題- 第4回 巡検学習の実際（1）地形・農業 第5回 巡検学習の実際（2）都市・観光 第6回 巡検学習の実際（3）交通・消費活動 第7回 巡検学習の実際（4）先史時代・古代・中世の遺構 第8回 巡検学習の実際（5）近世の遺構 第9回 巡検学習の実際（6）近代-産業遺産を中心に 第10回 巡検学習の学習指導案作成 第11回 地域調査の実践（1）商店街の調査 第12回 商店街調査結果の分析・発表 第13回 地域調査の実践（2）農村地域の調査 第14回 農村地域調査結果の分析・発表 第15回 地域調査の学習指導案作成				

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3575	授業科目名	社会・地理歴史科教育特論II	2022年度第2期
担当者	森 泰三	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	ICT（特に地理情報システム）の活用をはじめとする学校教育で求められている指導法の特徴を講義するとともに、社会科・地理歴史科教育に必要な地理情報システムを活用した指導法を、実践を通じて学ぶ。また、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育と今日的課題について、演習を交え地理学的視野から考察する。			
到達目標	社会科・地理歴史科教育における最新の指導法の研究と地理指導のための資質・能力の向上をテーマとして授業を進める。それにより、社会科および地理歴史科教育に必要な指導技術である地理情報システムや多様な地図資料を活用した教育方法を考察し、それらを活用した中学校や高等学校における授業が展開できる能力を習得する。また、地理学の素養を高め、社会科・地理歴史科教育で求められている高度な専門的資質と能力を身につける。			
成績評価基準	授業時の発表（40％）・レポートの内容（40％）・指導技術の習得状況（20％）により評価する。			
留意事項	コンピュータや地図などを使用した演習を実施する。			
教材	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編（文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編（文部科学省）、そのほか授業時に必要資料を配布する。			
授業予定	第1回 ICTを活用した社会科・地理歴史科教育 第2回 地理情報システムの概念と実践方法 第3回 WebGISによる地図作成と分析、指導方法 第4回 地理院地図を活用した地形と防災 第5回 MANDARAを活用した統計地図作成と考察 第6回 アドレスマッチングと立地分析 第7回 歴史地理学と社会科教育（1）城下町の立地、伊能図 第8回 歴史地理学と社会科指導（2）新旧地形図と地域変容、地名と歴史 第9回 社会科教育と地理学（1）学校教育と地域 第10回 社会科教育と地理学（2）地域形成と学校の役割 第11回 社会科教育と地理学（3）人口分布と人口増減、少子高齢化 第12回 社会科教育と地理学（4）大都市圏の構造変容 第13回 社会科教育と地理学（5）地方活性化とまちづくり 第14回 社会科教育と地理学（6）観光の開発と保全 第15回 社会科教育と地域の諸課題			